



Street view

# スラウド南麻布

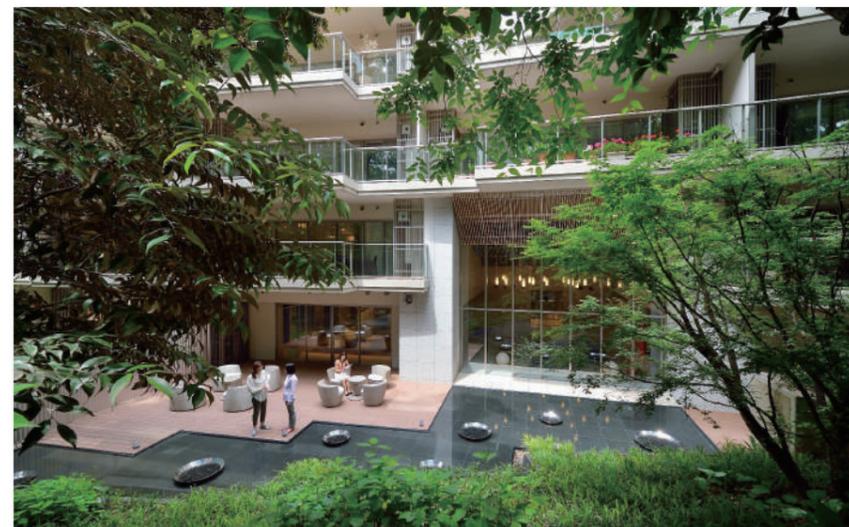
- 建築主: 野村不動産株式会社、三井物産株式会社
- 管理者: プラウド南麻布管理組合
- 設計者: 株式会社竹中工務店 東京本店
- 所在地: 南麻布四丁目11番46号
- 施設用途: 共同住宅
- 敷地面積: 4490.3㎡
- 高さ: 22.96m
- 緑化面積: 1043.7㎡
- 接道部緑化延長: 108m
- 緑化面積率: 23%
- 接道部緑化率: 81%

## 施設概要

- 既存の森を守り、高さを抑えた計画
- 歩道の無い生活道路への歩道状空地の提供・街路樹による沿道緑化
- 街並のスケールに合致した景観を生み出し、地域の安全性と快適性を高める計画



Balcony



Terrace



Aoki-zaka Slope



Bird's eye view

## 審査委員コメント

(みどり・景観街づくり賞)

フランス大使館街区全体での建替計画から生まれた中層の街路型集合住宅である。街区中央の約1haの既存の森を地域の財産として守るために、旧大使館を南側のテニスコート側に新築移転させ、残った三角形の敷地に森に面する7層の弓状の棟と街路に面する4～6層の逆L字型の棟を組み合わせた配置構成となっている。大使館側から見て存在を感じさせないことが必須条件となり森と同等の高さに抑えた計画は、地域のまちづくりと景観上大変効果的な結果をもたらした。交通量が多い割に歩道がなく、歩車共に通行の度に緊張感を強いられた生活道路に歩道状空地が提供され、街路樹による沿道緑化と共に地域に貢献している。明治通りから一步入った低層住宅が建ち並ぶエリアで、天空率や総合設計制度を利用して最大限の高さを得ようとする不調和な開発とは全く異なった事業コンセプトによって実現した大変貴重な事例である。街並のスケールに合致した景観を生み出し、地域の安全性と快適性を高める非常に優れた計画であり、類似した環境での開発の手本として注目すべきであろう。みどりの街づくり賞と景観街づくり賞のどちらの審査においても非常に高い評価を得た。





Upper level view



Lower level view



Slope



# アークヒルズ サウスタワー

- 管理者: 森ビル株式会社
- 設計者: 森ビル株式会社
- 所在地: 六本木一丁目4番5号
- 施設用途: 事務所、店舗
- 敷地面積: 5,846.7㎡
- 緑化面積: 2,030.3㎡
- 接道部緑化延長: 192.8m
- 緑化面積率: 35%
- 接道部緑化率: 84%

## 施設概要

斜面と谷からなる複雑な地形の中で、自然との親和性が高い蛇籠や地域種主体の樹種を用い、雑木林のような緑地空間をつくりだしている。屋上階には、大きな庭園を設け、実のなる樹木等を盛り込み、利用客が地域の自然や生きものとふれあうことができる緑地を提供している。また、敷地の起伏を活かし、周辺の緑と連続させるなど、生物多様性にも配慮した点は大いに評価できる。

Stair view



Passage



Front view



Main approach



# 北青山 3丁目ビル

- 所有者: 阪急リート投資法人
- 設計者: コンストラクションインベストメントマネジャーズ株式会社
- 設計監修者: MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO
- 所在地: 北青山三丁目12番13号
- 施設用途: 店舗、事務所
- 敷地面積: 434.9㎡
- 緑化面積: 48.6㎡
- 接道部緑化延長: 8.4m
- 緑化面積率: 11%
- 接道部緑化率: 57%

## 施設概要

道路に面した開放的な広場には、存在感のあるシンボルツリー、メラレウカ(ティーツリー)が植栽され、柑橘系樹木のさまざまな香りや草花を通じ、個性豊かなみどりを体感できる。樹木の管理も行き届き、みどり豊かな趣ある店舗が多く存在するこの界わいの魅力を格段にアップさせている。これから商業地に建築を計画する際のお手本となる大いに評価すべき施設である。

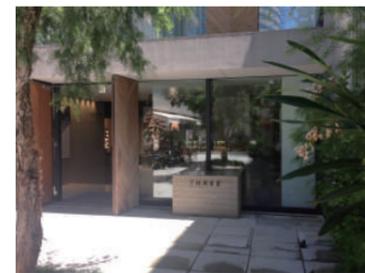
Landscape



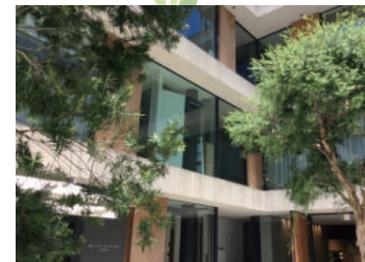
Symbol tree



Front view



Bottom view



Street view



Wall surface



Wall surface



Outside view



Garden Terrace



Outside view



# 日土地虎ノ門ビル

- 所有者: 日本土地建物株式会社
- 設計者: 日本土地建物株式会社一級建築士事務所
- 所在地: 虎ノ門一丁目10番5号
- 施設用途: 事務所、店舗
- 敷地面積: 1536.8㎡
- 緑化面積: 475.5㎡
- 接道部緑化延長: 78.53m
- 緑化面積率: 31%
- 接道部緑化率: 57%

## 施設概要

建物南側には、10種類以上の植物を用いた壁面緑化を地上31mまで施し、大きな特徴となっている。植物の育成環境に適した南側の壁面に緑化し、ルーバーを巧みに組み合わせて南側の日射を遮断した手法は評価に値する。また、四方を道路に囲まれた地上部には、壁面緑化のみならず、常緑樹でありながら季節感ある植栽が施され、施設利用者のみならず歩行者も楽しめる緑化空間が広がっている。

Street view



Entrance



Bottom view



Greenspace

# インプレストタワー 芝浦エアレジデンス

- 事業主: 双日株式会社、双日新都市開発株式会社
- 設計者: 浅井謙建築研究所株式会社
- 所在地: 港区芝浦2丁目6番16号
- 施設用途: 共同住宅
- 敷地面積: 1,324.12㎡
- 高さ: 88.24m

## 施設概要

- 圧迫感がなく軽快さを感じさせる意匠計画
- 街路樹とマッチし歩道に緑陰の趣を醸す道路面の植栽と、緑の脇道を思わせる隣地面の植栽
- 道路面の植栽と連鎖し、程よいアクセントを与えている壁面緑化

### インプレストタワー芝浦エアレジデンス



## 審査委員コメント

タワーマンションにありがちな圧迫感がなく軽快さを感じさせる佳品である。建物側面に凹凸が少なくガラスを多用していること、コーナーサッシを透明な仕様をしていること等が効果を上げている。グレイ系の落ち着いた壁面の色彩も好感が持てた。道路面、隣地面に確保したオープンスペースへの植栽は、高・低木をバランス良く配し、道路面は街路樹とマッチし歩道に緑陰の趣を醸し、隣地面は緑の脇道を思わせる。建物正面に施された壁面緑化は相当なインパクト。多少くどさを感じる向きもあるかもしれないが、道路面の植栽と連鎖し本作品に程よいアクセントを与えている。デザインの斬新さや創造性にはやや欠けるものの、良好な景観形成に向けての細やかで真摯な取り組み姿勢、識者のアドバイスを良く消化し実現していること、を評価し奨励賞とした。盛夏時に視察したが、壁面の緑化部分を始めとし適切に管理され四季折々に亘って爽やかな街並みをもたらす作品であり続けるよう期待している。

# 平成27年度 景観街づくり賞 特別賞 受賞団体

## 港区アドプト・プログラム - 道路・公園のボランティア活動 -



### 港区アドプト・プログラムとは

港区アドプト・プログラムは、地域の方々が道路・公園の維持管理(清掃や花壇管理等)を自主的に行う活動のことです。区民等が相互に協力し、地域の共有財産である道路・公園等の緑化活動や清掃等を行うことにより、道路・公園等への愛着心を深め、利用者のマナー向上と清潔で快適な街づくりの推進を目的として、平成14年度から実施しています。

### 活動継続5年を経過した団体



### 今年度の受賞団体

今年度の受賞団体は、港区アドプト・プログラムで活動継続5年を経過した団体です。地域の皆さんが主体となり、継続的に清掃・修景活動を行うことで、身近な景観街づくりに大きく貢献していただいています。区から感謝の意を込めて、特別賞として表彰します。



### 平成27年度港区景観街づくり賞特別賞受賞 アドプト登録団体 活動継続5年を経過(H26年度末時点)した団体一覧

実施団体	場所種別	活動内容	実施団体	場所種別	活動内容
ハマゴムエイコム株式会社	道路	清掃	アドプト芝浦アイランド	道路	パトロール・清掃
ボランティアグループ猫の郵便	公園	清掃	手塚 千代子	運河沿緑地	花壇管理
大和ライフネクスト株式会社	道路	清掃	港友会	公園	花壇管理
猿町花と緑の会	公園	清掃			

問い合わせ [アドプト・プログラムについて](#)

各総合支所協働推進課土木係 / 芝地区 TEL 3578-3131 / 麻布地区 TEL 5114-8803  
赤坂地区 TEL 5413-7015 / 高輪地区 TEL 5421-7615 / 芝浦港南地区 TEL 6400-0032

Green

## 港区みどりの街づくり賞とは

港区では、昭和54年度から建築計画に伴う緑化計画書の提出を義務付け、緑化の指導を行ってきました。緑豊かな都市づくりには、公共の緑とともに、民間施設の緑化が重要な役割を果たしています。

「港区みどりの街づくり賞」は、優れた緑化計画を行い、その緑地を維持している区民や事業者の皆さんを表彰し、地域緑化への協力に感謝を示すと同時に、さらなる民間緑化の発展を願って、平成16年度に創設しました。

### 概要

#### 表彰の対象となる施設

- ア 前々年度に完了した建築計画に伴う緑化施設で、港区みどりを守る条例施行規則の緑化基準を原則満たしており、緑化完了届が提出されているもの
- イ 港区みどりの活動員により推薦された施設で、■ア以外のもの

#### 選定基準

学識経験者、都市緑化に造詣の深い区民及び環境リサイクル支援部長で組織する選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。

- ① 周辺の景観と調和し、優れたデザインであること
- ② 維持管理が適切に行われていること
- ③ 自然環境の保護と再生に努めていること
- ④ 建築物と植栽地がバランスよく配置されていること
- ⑤ 既存樹木を活用していること
- ⑥ 生き物にやさしい植栽計画になっていること
- ⑦ 在来植物を取り入れていること
- ⑧ 地域社会とのつながりを持ち、地区への貢献が高いこと
- ⑨ 先進的な技術を取り入れていること
- ⑩ 施工と仕上がりの水準が高いこと

#### 賞の種類

1. みどりの街づくり賞 3点(■アを対象とする)
2. 特別賞 2点(■イを対象とする)

詳細は毎年度選定審査会で決めています。

Land scape

## 港区景観街づくり賞とは

港区では、平成21年度に「港区景観条例」を施行し、景観行政団体となって、景観法に基づく取り組みを始めました。そして、良好な景観形成を図るべく「港区景観計画」を策定し、同計画の景観形成基準に沿うよう、建築物の建築などに対する指導・助言を行っています。

「港区景観街づくり賞」は、良好な景観形成に功績のあった優れた民間の施設や活動を表彰することで、広く景観に対する意識の向上を図るとともに、魅力ある街づくりを推進するため、平成23年度に創設しました。

### 概要

#### 審査

港区景観審議会委員等で組織する選定審査会が受賞施設等の選定を行います。

#### 景観街づくり賞

##### 表彰の対象となる施設

表彰を行う年度の前々年度に、港区景観条例に基づく完了報告書が区に提出された民間施設のうち、特に良好な景観の形成に功績のあったもの

##### 選定基準

- ① 周囲からの見え方に配慮があり、周辺の街並みと調和しているもの
- ② 建築物、植栽等がバランスよく配置されており、憩いと安らぎを創出しているもの
- ③ 地域特性を生かしており、まちの魅力の向上に貢献しているもの
- ④ 地域社会とのつながりを持ち、区民等への貢献が高いもの
- ⑤ 都市景観の創造に先導的な役割を果たしているもの

##### 賞の種類

1. 景観街づくり賞
2. 景観街づくり賞奨励賞

##### 景観街づくり賞特別賞

「景観街づくり賞特別賞」は、港区景観条例による届出対象以外の、良好な景観形成に功績のあった施設や活動に対し、感謝の意を込めて表彰します。

## 審査員総評 みどりの街づくり賞によせて



千葉大学大学院  
園芸学研究所 教授  
審査委員長

赤坂 信



港区景観アドバイザー  
(株)佐藤尚巳建築研究所  
代表取締役

佐藤 尚巳



港区景観アドバイザー  
日本大学短期大学部  
准教授  
(有)GAヤマザキ  
代表取締役

山崎 誠子



公益社団法人  
観音崎自然博物館  
理事

高橋 雅雄

### いつまでも親しまれる街角でありますように

みどりの街づくり賞の審査では、街を歩く人にとっていかに快適な空間になっているかが重視される。もちろん誰もが立ち入るところでなければならない。ここに公開性と社会性が求められる。いくら有効な緑のストックでも、(否、ストックは大事です!!その重要性は明かですが...)アクセスできなければ、残念というしかない。しかし、それがアクセス可能な、どこか高いところから眺めることができれば、直接入ることができなくても、その緑の塊を見てその存在を知ることが、公開性のある程度満たすことになるのではないだろうか。

今回の選考対象はバラエティー富んでいた。生物多様性を志向する設計が評価されたと思えば、街角のチャームな広場がオープンに設計された店舗、隣接する敷地や道路に大きく配慮した設計、南側全面31mに壁面緑化を施した非常にユニークな設計が入選を果たした。以前は薄暗かった細い道が、新たな建設によって拡幅され、広く明るい歩道になることは地域への貢献といえよう。今後も港区内の親しまれるような街角を、さらに増やしていきたい。

### 緑陰づくりは地域の価値づくり

今年もまた猛暑の季節がやってきました。先日武蔵野市を訪れた際に感じたのですが、目に飛び込む緑と緑陰が非常に多く、明らかに肌に感じる気温が低かったのです。30年以上に渡り行政と市民が手を携えて緑の保存と増量に取り組んできた結果が実り、今では大変魅力的で住みやすい街が広がっております。港区でも平成16年年度に「みどりの街づくり賞」を創設し、緑を生かした魅力的な街づくりを奨励してきました。緑を積極的に取り入れて魅力的な都市環境づくりを進める事業者の方々も年々増えているように思えます。魅力的な環境を整備することで人が集まり、地域の価値が上がる、そんなプラスの連鎖反応が都市部にも広がることを期待したいと思います。

### 緑化にも挑戦力が必要

環境重視した緑化は、港区という場であれば差が出ないものになってしまう。しかし、今回の4つの優秀作は緑化のアプローチに違いがみられ、現地審査が楽しく感じられた。アークヒルズサウスタワーは段差がある地形を段状の緑化で柔らかうけとめ、接道する都とともに整備する歩道に関して緑化を提案したこと。プラウド南麻布は狭小道路に囲まれた空間を歩道空間と緑化で街のために開き、背景のフランス大使館の緑を借景として取り入れ一体的な風景として作り上げたこと。北青山3丁目ビルは商業施設や広場等の緑化にあまり使われたことのない個性的な植物(ティーツリー等)を積極的に使い個性ある広場を作ったこと。日土地虎の門ビルは壁面緑化を南側に設置し、壁と緑をデザイン的にうまく取り入れていること。このように、4作品は緑化に対して一歩踏み込んだ部分を感じた。環境を配慮することは当たり前になった今、街とのつながり、緑の効果、楽しみを具現化した作品がもっと出ることを期待したい。

### 次世代のみどりへの配慮も

この表彰制度は十二年目を迎えた。十年ひと昔というが、十年前の入賞作品が現在どうなっているかいささか気にかかるころだ。それにしても市街地のビルが大型化、高層化するにつれ、壁面緑化や屋上緑化に長足の進歩が見られ、中にはある種冒険的とも言えるデザインに挑戦する事項が散見されるようになった。屋上緑化に中木を導入しているのもその一例であろう。

そもそも三次元の空間を“みどり”を主体とした自然材で美的に整え、それを“時間”の経過を辿って完成に近づける四次元の造形作品にはみどりに対する不断の愛情と造園技術の手入れを入念に続けねばならない。

この制度の趣旨と若干異なるが、みどりの街づくりの観点から忘れてならないのは後継木への配慮である。とかく大木、老木の保存の声は耳にするが、次世代を担う若木の植栽への声あまり聞こえてこない。「前人栽樹後人涼」の中国の諺を肝に銘じるべきであろう。

## 審査員総評 景観街づくり賞によせて



### 区民にエクステリアの心地よさを

審査委員諸氏に代わり、今年度の検討経緯の概要をご報告いたします。まず、平成25年度に工事完了報告書が提出された57施設のうち、景観アドバイザーの推薦を経て5件が授賞候補となりました。これについて、7月9日に現地見学の実施、7月31日に選定審査会が開催され、審査委員各自が0～5点の加点方式にて各作品を評価した後、得点集計結果をもとに審議がすすめられました。その結果、1件に景観街づくり賞、1件に景観街づくり賞奨励賞が授与されることとなりました。景観街づくり賞授賞となった南麻布のマンションにはほとんどの審査員が5点を投じたのが印象的でした。フランス大使館の隣接地という土地柄に最大限のしかもエレガントな配慮をしたことが評価されました。いっぽう、奨励賞授賞となった芝浦の高層マンションは、エクステリアへの気配りが好感をもって受け入れられました。景観街づくり賞である以上、建物のインテリアの見事さではなく、通りがかった区民が普通に享受できるエクステリアの美しさ、心地よさが様々な角度から検討された次第です。

### 「地域らしさ」について多面的に熟考することが「景観」の質の向上につながる

以前、港区らしさの調査をしましたが、結果は「先進」「洗練」「優雅」でした。時代の先をいくデザインや生活が感じられるまちであり、洗練された上品さ、人にやさしく美しいまちとして評価されているようです。しかし、それに合わせて、トレンドの素材を使っておしゃれに設計したり、最近人気の樹種をとり揃えれば港区らしいのでしょうか。まちにはそれぞれに長年醸成された雰囲気があります。そんな雰囲気の背景を読み解き、港区の起伏ある地形や地域の暮らしへの配慮を感じさせる計画を拝見すると、周囲に溶け込むと同時に、新しい価値観をも提示しているように思われます。新鮮で個性的な素材をさりげなく使っていたり、空間の使い方の工夫や歩行者への配慮もみられ、そこに新たに心地よい景観が生み出されていることに気づきます。今後も、「このまちにあの建物やあのみちができてよかった」と感じさせてくれる計画を楽しみにしています。

### 地域と歩む街づくりへの工夫とその維持

近隣の町家との一体感の醸成に配慮した作品、既に完成された閑静な街並みの維持向上を意識した作品、既存の森を抱くように設計された大規模で意欲的な作品、タワーマンションにありがちな無機質さを緩和するよう工夫された作品、植栽や建物のデザインとともに水辺からの光景にも配慮した事務所・工場作品等バラエティに富んだ候補作ぞろいでした。わくわくして観させて頂きましたが、いざ審査となると評価基準の持ち方に悩みました。結局住民目線で規模の大小を問わず、地域と歩む街づくりへの工夫の跡が窺える作品を上位にすることにしました。本賞受賞作、奨励賞受賞作とも地域の特性を良く理解され、地域を育むための工夫を重ねられていると思いました。港区民として、各候補作に関わられた皆様に感謝申し上げるとともに、今後の管理にも留意して頂き当区の健やかな景観形成の維持にご協力頂くようお願い致します。

### 景観は地域の資産

空前の日本ブームにより観光客に沸く東京。観光の対象は電化製品やブランド品から日本食、文化、歴史的建造物や町並などの文化的な資産にも広がり、オリンピックとも呼応して魅力的な街を創ろうとする意識は客観的には高まってきました。しかし開発や建替を計画する当事者となると、景観に対する配慮は優先度としてはまだまだ低いと言わざるを得ません。今回受賞した作品は一般的な開発手法とは逆に、景観を地域では得難い資産と位置づけ付け加価値を高めて成功した事例となりました。魅力的な環境が創出されることで近隣の人々の意識改革が進み、景観に少しでも配慮する事例が増えることで地域全体の資産価値は向上して行きます。絶好の機会に好ましい潮流を広め加速しましょう。

### 一つ一つの建物がまちを繋ぐ、共有感のある景観づくり

賞の候補は港区の歴史、文化景観特性が良く表れた多様な魅力のあるものでした。魅力的な景観とは歴史的な連続性が感じられる街であると思います。どのような場所であっても理由なく、無意味につくられた道や建物も無いはず。まちの風景は様々な要素で構成され、作られたときには何らかの必要性があったものの筈です。しかし、それが段々と無造作に積み重なった場所は無残な風景となりました。最近では建物のリノベーションも多くなり、様々な建物の改変が見られます。無秩序に見える日常のまちの風景も細かく見れば創られた時の意図が見える筈です。細分化された個々の空間や建物だけを考えるのではなく、一つの建物がまちを繋ぐ、共有感を強く意識して欲しいものです。まちは誰もが共有できる文化を持った庭として、人と人・文化・自然の関わりを見える形にすることで心地よく、住み続けたいまちの景観の魅力が創られるものと考えます。



港区景観審議会会長  
東京工業大学大学院  
社会理工学研究科 教授

齋藤 潮



港区景観審議会副会長  
(株)日本カラーデザイン研究所  
景観事業部担当部長

杉山 朗子



港区景観審議会委員  
区民委員

丸 純一



港区景観アドバイザー  
(株)佐藤尚巳建築研究所  
代表取締役

佐藤 尚巳



港区景観アドバイザー  
株式会社戸田芳樹風景計画  
取締役 設計室長

大橋 尚美